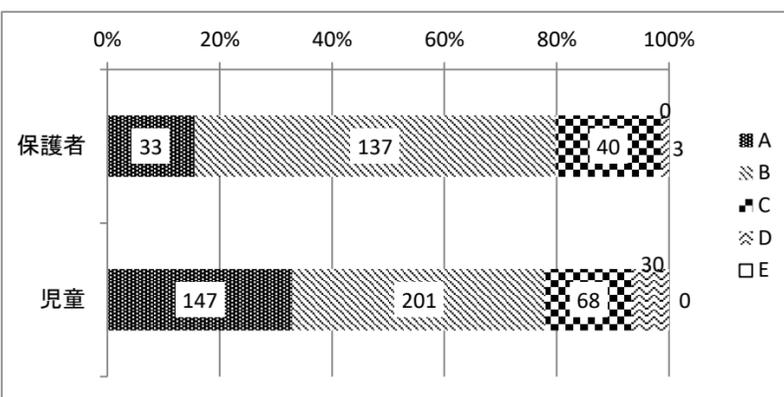


1. 児童は、「授業が楽しい」「よく分かる」と感じている。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	33	137	40	3	0	213
児童	147	201	68	30	0	446

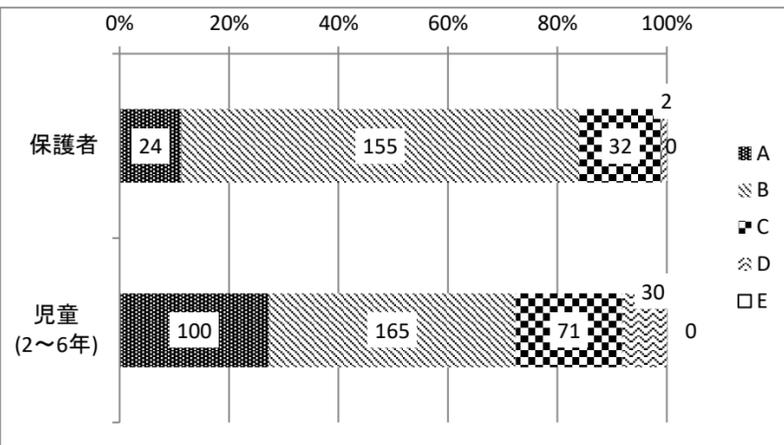
<考察>「授業が楽しい」「よく分かる」と感じている児童が80%に達しておらず、学習に課題を感じている児童もいるようです。1学期から日々の学習の積み重ねをしてきましたが、その中で児童が基礎的・基本的な学力を身につけることを目指して、授業を行っています。今後も授業内での児童のつまづきを見落とさず、「勉強がわかった。できた。」という児童がさらに増えるよう、教員同士で研修を深め合い、授業をいっそう充実させていく必要があると考えています。教材研究についてもしっかりと行い、子供たちが理解を深められるような授業をつくる努力を続けていきます。



2. 学校は、学力の向上に努めている。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	24	155	32	2	0	213
児童 (2~6年)	100	165	71	30	0	366

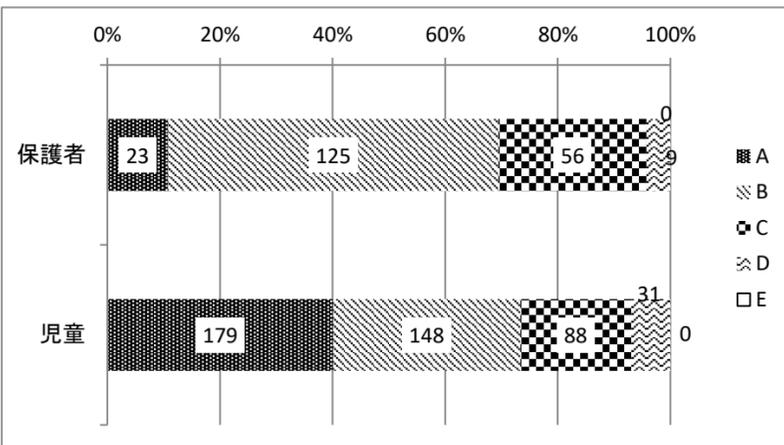
<考察>保護者の肯定的な回答は、中間調査と同様に80%を上回っています。児童の肯定的な回答も変わらず80%近くを得られました。学校では、朝学習(基礎計算、習った漢字の反復練習、アルファベット、チャンツ、英語の歌によるヒアリング)や、家庭学習等の日々の学習の取り組みが習慣化することができたと考えます。さらに、授業の中で、問題解決的な学習の時間を設定したいと思います。学年末に向けて、各学年の実態を把握し学習課題を克服するように努力していきます。今後とも、ご家庭のご理解・ご協力をお願いいたします。



3. 学校はいじめが起きないように努力している。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	23	125	56	9	0	213
児童	179	148	88	31	0	446

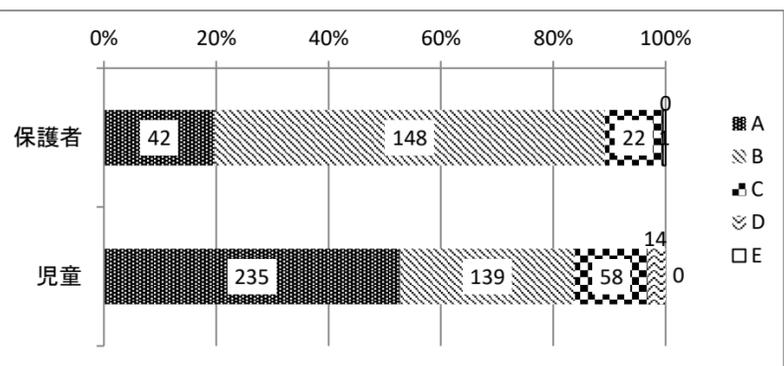
<考察>保護者の肯定的な回答が60%を下回っていた中間調査に対し、今回の調査では、70%ほどに上がりました。学校での休み時間の見守りや指導などが成果につながり始めたと考えています。一方で、児童の肯定的な回答は、前回の調査よりわずかに下がりました。「いじめ標語づくり」や児童会活動などを通して、いじめが起きないようにしていく活動を児童が主体となって取り組んでいます。年に3回のふれあい月間では、いじめに関するアンケートを行い、記述がある児童には聞き取り調査を行って、早期発見に努めています。こうした活動や日々の取り組みが、成果として出てくるようにしていくことが課題です。また、スクールカウンセラーや巡回相談員と連携して、児童がいつでも相談できることを呼び掛け、児童が相談や支援を受けやすい環境になるよう努力していきます。



4. 学校は、児童の体力の向上を目指して取り組んでい

	A	B	C	D	E	合計
保護者	42	148	22	0	1	213
児童	235	139	58	14	0	446

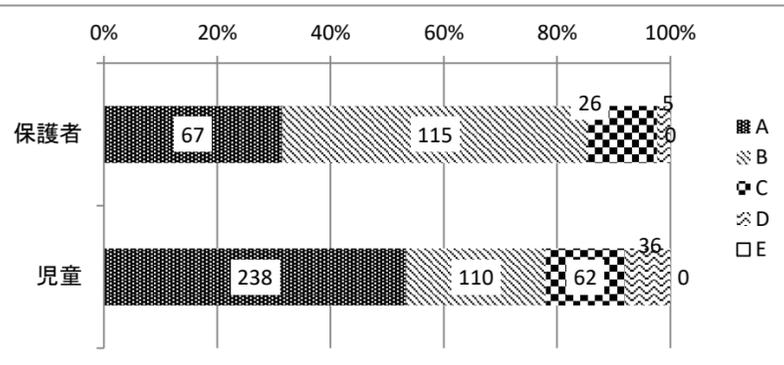
<考察>中間調査では、肯定的な回答が保護者78%・児童82%で、平均すると80%を超える程度でしたが、今回の調査での肯定的な回答は、保護者89%・児童85%でした。今年度は、全学級で管理職による体育の授業観察を実施し、教員の授業力向上と児童の体力向上につながるよう各学級担任に指導・助言をする取組をしました。体育の授業で、教師が運動時間をしっかり確保し、学習目標を明確にしながら指導することを続けていきます。また、2学期の持久走月間、3学期のなわとび月間等で、運動への意欲や関心を高めていくよう努力を続けます。



5. 児童は、進んで外で遊んでいる。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	67	115	26	5	0	213
児童	238	110	62	36	0	446

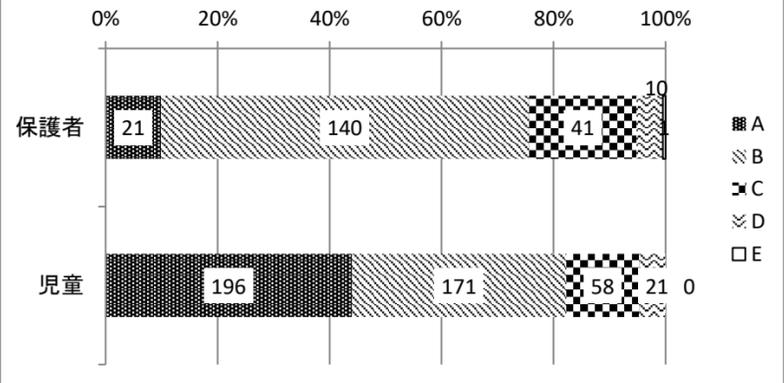
<考察>児童の肯定的な回答が、80%に近づきました。中間調査に比べると、児童の意識が高まってきているように感じます。1月の生活目標「外で元気にあそび、体をきたえよう」では、互いに声を掛け合い、外で元気に遊ぶ児童の姿がたくさん見られました。また、運動委員会による外遊びを促す放送を聞いて外に出て行く様子も見られました。引き続き、積極的に外に出るように職員全体で児童に声をかけていきます。そして、声をかけるだけでなく、児童が遊びの幅を広げられるよう運動や遊びの紹介など、今後も工夫していきます。



6. 学校は児童の理解に努めている。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	21	140	41	10	1	213
児童	196	171	58	21	0	446

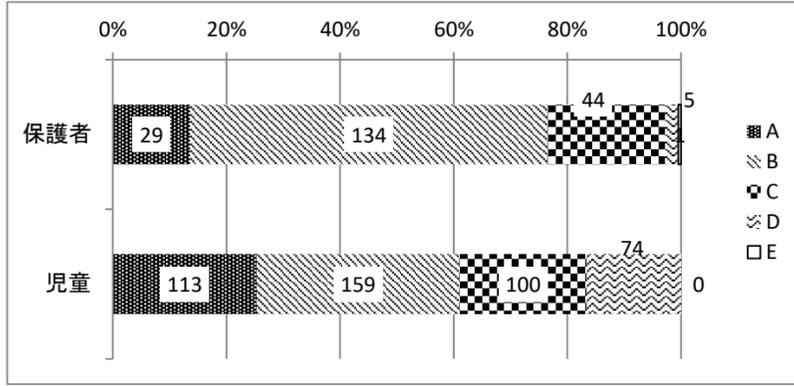
<考察>中間調査では、保護者の肯定的な回答が70%程度だったのに対し、保護者では80%近くに達することができました。子供の肯定的な回答が80%を超えたことは大きな成果だと考えられます。教員間では、週に一度、担任や専科から各学級の様子を伝え、校内委員会では配慮を必要としている児童への支援の仕方を話し合っ、全教員で共通理解を図るなど情報交換を行っています。また、夏休みには教員の研修を行い、支援の必要な児童への対応等を検討しています。児童一人一人を担当だけでなく、教員全員で見守り、児童理解に努めています。



7.学校は、児童に特別支援教育の内容を理解させることに努めている。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	29	134	44	5	1	213
児童	113	159	100	74	0	446

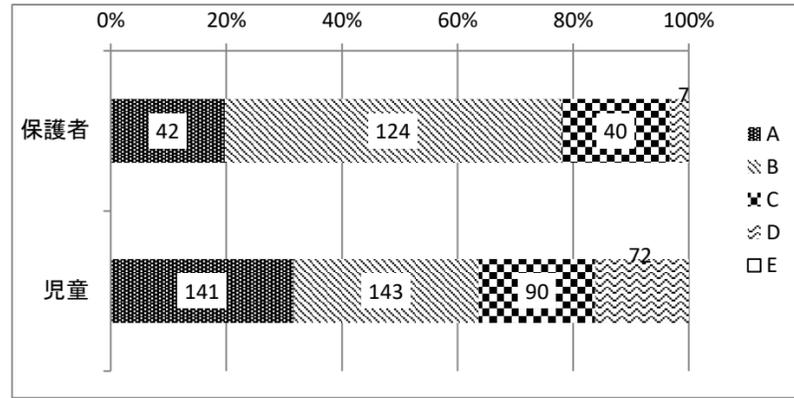
<考察>保護者の肯定的な意見が80%近くで中間調査より上がっています。反対に、児童の肯定的な意見が下がっています。6年間の学校生活において、2年生、5年生ではあきる野学園の交流会を通して、特別な支援が必要な児童・生徒の理解を深めることができました。その他の学年でも、コミュニケーションクラスとの理解教育を通じて、特別支援教育について学ぶことができました。



8.児童は学校で、読書活動に親しんでいる。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	42	124	40	7	0	213
児童	141	143	90	72	0	446

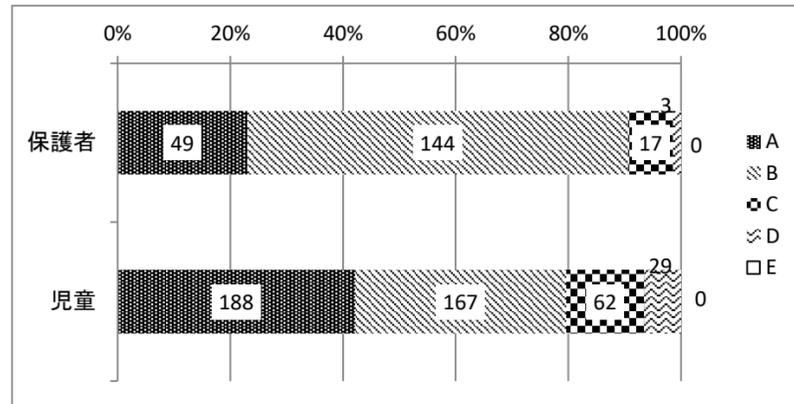
<考察>保護者は肯定的に捉えています、児童の割合が約60%でした。2学期は行事が多く、児童が落ち着いてじっくり読書に取り組む時間がとれづらかったのかもしれませんが、週に1回の図書室利用も、学習発表会などが迫ってくると、確保しづらい面もあったようです。しかし、読書旬間に行われる保護者や地域の方による読み聞かせでは、集中して楽しめています。3学期には図書委員によるパネルシアターが行われる予定です。低学年は1学期同様、中央図書館を利用して教室に図書を配置したり、4年生の総合的な学習の時間では福祉に関連した本を借りたりしています。図書支援員は、読み聞かせ・掲示物・しおり等、積極的に取り組んでいます。



9.学校は、地域の協力を得て、学習活動を行っている。

	A	B	C	D	E	合計
保護者	49	144	17	3	0	213
児童	188	167	62	29	0	446

<考察>保護者、児童とも肯定的に捉えています。保護者から約90%の肯定的な回答を得ることができました。高学年は、米作り(5年生)や菊作り(6年生)で、年間を通じて地域の方々にお世話になっているため、地域の方に親近感をもって接しています。低・中学年は年間通してという機会は少ないですが、1年生は芋掘り、2年生は町探検、3年生は地域の工場見学、獅子舞、4年生は清掃工場や消防署の見学など、地域の協力を得て学習活動を行っています。これからも、地域とのつながりを強調した教育活動を心がけていきます。取り組み内容も引き続き、お便りやホームページ等で発信していきます。



10.学校は外国語活動の充実に向けて取り組んでいる。

	A	B	C	D	E	合計
保護者 (3~6年)	15	108	33	4	53	213
児童 (3~6年)	108	100	53	40	0	301

<考察>中間調査では保護者、児童ともに肯定的な回答が80%程度だったのに対し、今回は保護者は約60%、児童は約70%と低下が見られます。今年度はAETと連携し、中学年で11時間、高学年で34時間の授業を行いました。より達成感を味わわせるためにも、学んだ表現を定期的に復習しながら、それをを用いる場面を意図的に設定し、友達とのコミュニケーション活動を楽しむことができますようにします。教員同士の研修を行ったり、授業内での行動観察や振り返りカード等を活用して、児童の課題を把握したりして、授業改善に繋げていきます。

